

HCL information

検査内容変更のご案内

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
このたび、下記検査項目におきまして、検査内容を変更させていただきたくご案内申し上げます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

●変更実施日 : 2025年 3月 31日(月) 受付分～

●変更内容

案内書掲載頁	項目コード	検査項目	変更箇所	変更後	変更前
P49	9109	(1→3) β-D-グルカン	検査方法	発色合成基質法	比濁時間分析法
			基準範囲	20.0以下 (pg/mL)	11.0未満 (pg/mL)
			測定範囲	4.0～500.0 (pg/mL)	6.0～600.0 (pg/mL)

●変更理由 : 測定試薬変更のため

案内書掲載頁	項目コード	検査項目	変更箇所	変更後	変更前
P49	9117	エンドトキシン定量	所要日数	3～4日	1～2日
			報告書	外注報告書	報告書⑧
			委託先	LSIメディエンス	弊社

●変更理由 : 項目数僅少のため外注委託に変更

※ (1→3) β-D-グルカンとエンドトキシン定量の同時依頼の際は、専用採血管の提出が2本必要となります。
ご迷惑をお掛け致しますが、ご了承のほどお願い申し上げます。

● 臨床的意義

(1→3) β-D-グルカン

深在性真菌症は全身の臓器や組織で侵される感染症で、代表的な疾患としてカンジダ症、アスペルギルス症、クリプトコッカス症などが挙げられる。国内においては多くの日和見感染症として発症する。

真菌の細胞壁の主要な構成成分の一つである(1→3) β-D-グルカンは、細菌やウイルスには存在せず、カンジダ属やアスペルギルス属などの多くの真菌（接合菌を除く）に特異的に存在する。これらの真菌による深在性真菌症の場合、血中(1→3) β-D-グルカンが上昇することが多く、深在性真菌症のスクリーニング検査として有用である。

(1→3) β-D-グルカンは、深在性真菌感受性の診断以外にも、治療法の選択や治療効果の判定にも使用されている。

エンドトキシン定量

グラム陰性菌の細胞壁外膜に存在するリポ多糖であり、強い発熱作用と補体系や凝固系の活性化などの多彩な生物活性を持つことが知られている。血中エンドトキシンを測定することにより、グラム陰性菌による敗血症の迅速診断及び治療効果の判定に使用される。

● (1→3) β-D-グルカン 従来法との相関図

